



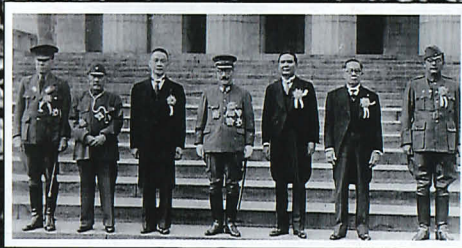
現在、世界には 195 の独立国家があり、そのうち非白人国は 112 ヶ国です。これらの国の殆どが先の大戦後に独立を果たしました。それを可能にしたのは「日本が大東亜戦争を戦ったから」です。米国に追い詰められ自存自衛の為に戦争を決意せざるを得なかった日本。しかし、この戦いを敢行することで欧米数百年の植民地支配に止めを刺すことが出来ました。我が国は敗戦、占領という一大犠牲を払うも、有色民族を解放と独立に導き、人種差別を撤廃する事に成功したのです。



第 43 回歴史講演会

終戦 70 周年 今明かされる歴史の真実

大東亜戦争とアジアの独立



開戦間もない昭和 18 年「大東亜会議」が日本で開催された。写真は会議に出席した各国首脳 パー・モウ（ビルマ）、張景惠（満洲国）、汪兆銘（中華民国）、東條英機（日本）、ワンワイターコーン（タイ）、ホセ・ラウレル（フィリピン）、スバス・チャンドラ・ボース（インド）。背景写真はその時、東京日比谷公園にて開かれた「大東亜結集国民大会」に集結し各国首脳の演説に万歳を唱える日本国民。



講師：岡田幹彦氏

（日本政策研究センター主任研究員）

■プロフィール

昭和 21 年北海道生。国学院大学中退。学生時代より日本の歴史、人物の研究を続け月刊『明日への選択』に人物伝を連載中。「歴史街道」「歴史通」などにも寄稿。平成 21-2 年産経新聞に「元気のぞる歴史人物講座」を連載。全国各地で歴史人物の講演活動を行う。

■著書『東郷平八郎』『乃木希典』『小村寿太郎』（展転社）、『日本を護った軍人の物語』（祥伝社）、『日本の誇り 103 人』（光明思想社）他多数

～プログラム予定～
 * 受付開始・・・13:15
 * 開会宣言・・・14:00
 * ドキュメンタリー映画
 「独立アジアの光」
 * 岡田幹彦先生講演
 * 閉会の辞・・・16:15 ～
 時間は多少変更することがあります。

と き： 平成 27 年 **11 月 3 日（火・祝）**
 午後 2 時～4 時 30 分

ところ： **仙台市シルバーセンター**
 6 階・第 2 研修室
 青葉区花京院 1-3-2
 仙台駅西口徒歩 8 分・東北電子専門学校隣り

参加費： 一般 1,000 円 学生無料

主 催： **宮城ビジョンの会** TEL022 (285) 3383

後 援： **宮城県教育委員会**
産経新聞社東北総局
日本会議宮城県本部

連合軍司令長官D・マッカーサー氏



(日本には)石油がない、錫がない、綿がない、ゴムもない。もしこれらの原料の供給を断ち切られたら、一千万から一億二千万人の失業者が日本に発生するであろうことを彼等は恐れた。従って日本が戦争に駆り立てられた動機は、大部分が安全保障の必要に迫られたことだった。(1951年米上院軍事外交合同委員会)

英国元通産相オリヴァー・リトルトン氏



米国が戦争に迫込まれたというのには、歴史を歪曲するも甚だしい。米国が余りひどく日本を挑発したので日本は真珠湾攻撃の止むなきに至ったのだ。

東京裁判判事・国際法学者(インド) ラダ・ビノード・パール博士



欧米諸国は日本が侵略戦争を行ったということに歴史にとどめることによって、自分らのアジア侵略の正当性を誇示する目的であったにちがいない。

私は1928年から45年までの17年間の歴史を2年7ヶ月かけて調べた。

この中には、おそらく日本人の知らなかった問題もある。それを私は判決文中に綴った。その私の歴史を読めば、欧米こそ憎むべきアジア侵略の張本人であるということがわかるはずだ。しかし、日本の多くの知識人は殆どそれを読んでいない。

日本の子弟がゆがめられた罪悪感を背負って、卑屈、退廃に流れていくのを、私は平然と見過ごす訳にはゆかない。彼らの戦時宣伝の偽瞞を拭拭せよ。誤れた歴史は書き換えられねばならない。

英国歴史学者アーノルド・トインビー氏

第二次大戦において、日本人は日本のためというよりも、むしろ戦争によって利益を得た国々のために、偉大なる歴史を残したと言わねばならない。その国々



とは、大東亜共栄圏に含まれていた国々である。日本人が歴史上に残した業績の意義は西洋人以外の人類の面前においてアジアとアフリカを支配してきた西洋人が、過去二百年の間に考えられていたような、不敗の半神でないことを明らかに示した点にある。(中略)

1941年、日本はすべての非西洋国民に對し、西洋は無敵ではない事を決定的に示した。この啓示がアジアの志気に及ぼした恒久的影響は、1967年のベトナムに明らかである。昭和43年毎日新聞

英国歴史学者 H・G・ウェルズ氏



この大戦は植民地主義に終止符を打ち白人と有色人種との平等をもたらした。世界連邦の礎石を置いた。

マレーシア元首相 マハティール氏



日本の戦争責任を問うならば、それより以前、非人間的な支配と収奪をつづけた欧米の宗主国の責任はどうなるのか。日本が来たことで植民地支配から解放され近代化がもたらされた。

元マレーシア外務大臣ガザリ・シャフィイ氏



日本はどんな悪いことをしたと言っているか。大東亜戦争で、マレー半島を南下した時の日本軍は凄かった。わずか3カ月でシンガポールを陥落させ、我々にはとてもかなわないと思

っていたイギリスを屈服させたのだ。私はまだ若かったが、あの時は神の軍隊がやってきたと思っていた。日本は敗れたが、英軍は再び取り返すことができず、マレーシアは独立したのだ。

タイ王国元首相ククリックド・プラモード氏



日本のお陰でアジアの諸国はすべて独立した。日本というお母さんは難産して母体をそこなったが、産まれた子供はすくすくと育っている。今日、東南アジアの諸国民が米英と対等に話ができるのは、いったい誰のお陰であるのか。それは身を殺して仁をなした日本というお母さんがあつたためである。

12月8日は、我々にこの重大な思想を示してくれたお母さんが一身を賭して重大決意をされた日である。我々はこの日を忘れてはならない。

インド元大統領ラダ・クリシュナン氏



インドは当時、イギリスの不沈戦艦を沈めるなどという事は想像も出来なかつた。

それを我々と同じ東洋人である日本が見事に撃沈した。驚きもしたが、この快挙によって『東洋人もやれる』という気持ちが高まった。

インドネシア元情報報伝相 プン・トモ氏



我々アジアやアフリカの有色民族は、ヨーロッパ人に対して何度となく独立戦争を試みたが、すべて失敗した。インドネシアの場合は30年間も失敗が続いた。

それなのに、日本軍がアメリカ・イギリス・オランダ・フランスを我々の面前で徹底的に打ちのめしてくれた。我々は白人の弱体と醜態ぶりを見て、アジア人全部が自信を持ち、独立は近いと知った。一度持った自信は決して崩壊しない。日本が敗れた時、「これからの独立は自力で遂行しなければならぬ。自力でやれば50年はかかるだろう」と思っていたが、独立は意外にも早く勝ち取る事が出来た。

ビルマ元首相 バ・モウ氏



真実のビルマの独立宣言は1948年の1月4日ではなく、1943年8月1日に行われたのであって、真のビルマ解放者はアトリー率いる労働党政府ではない。

東条大将と大日本帝国政府であった約50年前ビルマは三度に渡る対英戦争の結果その独立を失った。イギリス側はアジアに対する侵略的野望を以つてこれらの戦争を遂行した。愛国者は挺身的精神を以つて鎮圧する為、捕まったり殺されたりする事を恐れずに戦った。これら英雄達はビルマ生き残りをかけて戦うが遂には負けてしまった。

ビルマ人は、アジアを一つにまとめアジアを救う指導者をずっと待ち望んでいたが、遂にその指導者なる大日本帝国が立ち上がった。ビルマ人が我が国に對する最大の貢献をしてくれた日本への感謝を永遠に忘れない事を希望する。ビルマの独立宣言より抜粋

韓日文化研究所 朴鐵柱氏(韓国)



大東亜戦争で日本は敗れたと言いが、敗れたのはむしろイギリスをはじめとする植民地を持つた欧米諸国であつた。

彼らはこの戦争によって植民地をすべて失つたではないか。『戦争に勝つた負けは、戦争目的を達成したかどうかにより決まる』とは、クラウゼビッツの戦争論である。日本は戦關に敗れて戦争目的を達成した。日本こそ勝つたのであり、日本の戦争こそ『聖なる戦争』であつた。(中略)それは日本の武士道の発露であつた。日本の武士道は、西欧の植民地勢力に捨て身の戦士道を与えた。それは大東亜戦争だけでなく、日露戦争もそうであつた。日露戦争と大東亜戦争、この二つの捨て身の戦争が歴史を転換し、アジアの諸国民の独立をもたらした。この意義はいくら強調しても強調しすぎることはない。